

短大生への親の言葉かけと現在の考え方や性格との 関連性について

高妻 弘子

How do Words Offering from Parents to Junior College Students Effect Their Attitude and Personalities of the Moment?

Hiroko KOZUMA

1 はじめに

本研究は、短大生における現在の親の言葉かけが、学生の考え方や性格とどのような関連があるか明らかにすることを目的としたものである。

近年、子育てについての情報はかなり増えてきており容易に手に入りやすくなっている。子どもの発達や子育てに関するアドバイスはもちろんのこと、TVやラジオではカウンセラー等による子育て相談や事例・実践例の紹介などもおこなわれている。書店でも子育てに関する書籍は増えてきており、言葉かけによる効果や影響を題材にしているものも目にする機会が多くなった。筆者は、前回、『子どもが育つ魔法の言葉』ドロシー・ロー・ノルト、レイチャル・ハリス、石井千春＝訳（1999）におけるドロシー博士の詩「子は親の鏡」19連の中から次の4連に絞って、幼児期における親の言葉かけと子どもの考え方や性格との関連性について検証した（高妻 2018）。

子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる

叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる

認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる

アンケートは、短大生に幼児期を振り返ってもらい過去の記憶をたどりながら答えてもらったこともあり信憑性に欠ける部分もあるかもしれないが、結果は、「認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる」においては関連性が見られたが、他3連に関しては強い関連があるとは言いきれなかった。そこで今回、短大生の現在における親の言葉かけと考え方や性格との関連はどうだろうかという点に着目して検証をおこなった。

これまでの研究において、親の言葉かけと子どもの考え方、性格についての研究は少ない。今回は次の先行研究を参考にしながら「馬鹿」「叱り」「励まし」「認め」をポイントに幼児期の生活に想定される場面を取り上げ、質問紙を独自に作成した。1つは「自己抑制」「自己主張」「明確さ」「忍耐」を促進するような言葉かけ因子を見出し、自己抑制を促す言葉かけは子ども

の自己抑制力に影響しないことや自己主張を促進する言葉かけが多い場合は自己抑制が発達することを明らかにした、森下・藤村（2013）の小学校の頃の養育者からの言葉かけが女子大学生の自己制御機能の発達に与える影響についての研究。もう1つは、母親の言葉かけの分析結果から「寄り添い」「否定拒否」「突き放し」「なぐさめ」「受容支持」の5つの因子を見出した、森下・松山（2014）の中学・高校時代の言葉かけが女子大学生の母子関係に与える影響を調べた研究である。今回は、現在の短大生の生活を想定し質問紙を作成することとした。

2 予備調査

短大生が比較的経験するであろう場面、たとえば「何かに成功したとき」「夜更かししているとき」など15場面を想定し、現在の日常生活において親からかけられると考えられる言葉にはどんなものがあるか「馬鹿にされた言葉」「叱られた言葉」「励まされた言葉」「認められた言葉」の4枠について短大生37名に自由記述式の予備調査をおこなった。自身がかけられた言葉だけでなく友達から聞いた話やメディアから得た情報でもよいことを伝え、できるだけ具体的に、また思いつく限り多くの記述をしてもらい質問紙を作成した。項目については馬鹿にされる・叱られる・励まされる・認められるであろう状況を平均的に取り上げ、偏りのないように配慮した。

3 本調査

現在、親からかけられる言葉と自身の考え方や性格との関係を検証するために、短大生を対象に質問紙調査をおこなった。

（1）調査対象

短大生265名（1年生204名、2年生61名）を対象に質問紙調査を実施した。そのうち有効回答が得られた262名（1年生203名、2年生59名）のデータについて分析をおこなった。

（2）質問紙の作成

親からの言葉かけについての項目は、日常生活において想定される場面と予備調査で得た回答から質問紙を作成し用いた（表1）。質問紙には予備調査で書き出された言葉を分類し、代表的な2～3例をあげた。方言や表現が適切でない部分もあるが、学生の書き出した言葉が身近なものであると考えそのまま使用した。また、代表的な例のなかに言葉が入っていないと戸惑う学生のために、自身が抱いた感情で選択できるように（馬鹿にされた）（励まされた）等と示した。

なお、考え方や性格については自己肯定感尺度の中から尺度を絞って用いることとした。

ドロシー博士の「馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる」では、引っ込みじあんなを自己表明・対人積極性と捉え、平石（1990）の自己肯定意識尺度8項目、佐伯ら（2006）の自己効力感・自己肯定感尺度32項目のうち6項目を用い、「私は引っ込みじあんです」の項目を加えた。「叱りつけてばかりいると、子どもは自分は悪い子なんだと思ってしまう」「励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる」では、自己実現的態度・充実感と捉え、平石（1990）の自己肯定意識尺度16項目、佐伯ら（2006）の自己効力感・自己肯定感尺度32項目のうち8項目を用い「自分は悪い子だと思っています」「私は自分に自信があります」の2項目を加えた。「認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる」については自己受容と捉え、平石（1990）の自己肯定意識尺度8項目のうち7項目を用い「私は自分のことが好きです」の1項目を加えた（表2）。これに関しては前回と同じ項目になっている。

表 1 短大生が親からかけられる代表的な言葉について

1. 積極的に手伝いをしたとき	1. 馬鹿にされた（どうせできんが 余計時間がかかる などの言葉） 2. 叱られた（触らんで また失敗して あっち行って などの言葉） 3. 励まされた（もう少し 頑張って できるとおもうよ などの言葉） 4. 認められた（助かるわ 見直した 成長したね などの言葉）
2. テストができなかったとき	1. 馬鹿にされた（どうせできんちゃから いつものことやわ などの言葉） 2. 叱られた（勉強せんからよ 遊んでばっかりやからやわ などの言葉） 3. 励まされた（次、頑張ればいいよ 難しかったんだね などの言葉） 4. 認められた（本当はもっとできるんだけどね 十分頑張ったから などの言葉）
3. 何かに失敗したとき	1. 馬鹿にされた（ほらやっぱりね ウケる～ ばっかじゃない などの言葉） 2. 叱られた（何で失敗すると だから言ったでしょ いい加減にして などの言葉） 3. 励まされた（次は出来る もう1度やってみたら 心配せんで大丈夫 などの言葉） 4. 認められた（そこまで出来れば大丈夫 ここまでできてすごいじゃん などの言葉）
4. 食べ物の好き嫌いをしたとき	1. 馬鹿にされた（まだ食べれんと？ えっ嘘やろ 子どもじゃん などの言葉） 2. 叱られた（残すな 食べるまで出すからね 全部食べなさい などの言葉） 3. 励まされた（少しくも食べてみて きっと食べれるが などの言葉） 4. 認められた（苦手やっちゃね 食べられなくてもいいが などの言葉）
5. 何かに成功したとき	1. 馬鹿にされた（できて当たり前じゃん いまさら？ などの言葉） 2. 叱られた（何で今までできんかったと？ もっと上手にできんと などの言葉） 3. 励まされた（頑張ればもっと上手にできる 努力してよかったね などの言葉） 4. 認められた（頑張ったね できると信じてたよ などの言葉）
6. 進んで片付け（掃除）をしたとき	1. 馬鹿にされた（時間がかかるね 珍しい などの言葉） 2. 叱られた（勝手に動かさんで 余計なことせんで など） 3. 励まされた（最後まで頑張って こうすると早いよ などの言葉） 4. 認められた（ありがとう 頑張ってるね 助かるわ などの言葉）
7. 夜更かししているとき	1. 馬鹿にされた（病気じゃない？ 朝も夜も分からんちゃ などの言葉） 2. 叱られた（いつまで起きちよっと？ 早く寝なさい などの言葉） 3. 励まされた（体調崩すよ 目を閉じてみたら などの言葉） 4. 認められた（眠くないんだね 大人になったね などの言葉）
8. 勉強のことで質問したとき	1. 馬鹿にされた（馬鹿じゃない 習ったのに分からんと？ などの言葉） 2. 叱られた（授業で聞いてないからよ 自分で調べなさい などの言葉） 3. 励まされた（一緒に調べてみようか もう少し頑張ってみよう などの言葉） 4. 認められた（難しいことしてるね 勉強してすごいね などの言葉）
9. 実力が発揮できたとき（学校行事、習い事など）	1. 馬鹿にされた（できて当たり前じゃん やっとできたね などの言葉） 2. 叱られた（あそこがダメだった こうしたほうがよかった などの言葉） 3. 励まされた（これからも頑張って 応援してるよ などの言葉） 4. 認められた（さすがやね 努力してたもんね などの言葉）
10. 就職、進路の相談をした時	1. 馬鹿にされた（どうせ無理でしょ 続けられるの？ などの言葉） 2. 叱られた（やめとけ 考えなおしたら 何考えてるの？ などの言葉） 3. 励まされた（きっとできるよ 応援してる やるだけやったら？ などの言葉） 4. 認められた（挑戦するってすごい うまくいくといいね などの言葉）
11. 園や学校の先生に叱られたとき	1. 馬鹿にされた（またっ？ 何度も懲りんね などの言葉） 2. 叱られた（あんたがいけないでしょ 分からん子やね などの言葉） 3. 励まされた（今度頑張ればいいよ 明日はいいことある などの言葉） 4. 認められた（つらかったね 何か理由があったんでしょ などの言葉）
12. 何かプレゼントをしたとき	1. 馬鹿にされた（センス悪い 違うのがほしかった などの言葉） 2. 叱られた（こんなのにお金使って 貯金しなさい などの言葉） 3. 励まされた（このために頑張ってたんだね 大切にするから などの言葉） 4. 認められた（嬉しい ありがとう こんな欲しかった などの言葉）
13. 遊びで帰りが遅くなったとき	1. 馬鹿にされた（時間も分からんと 遊び人間 不良 などの言葉） 2. 叱られた（遅いでしょ！ 何時だと思ってるの などの言葉） 3. 励まされた（次からは時間守ってね 早めに連絡して などの言葉） 4. 認められた（何かあったんでしょ 遅いから心配してた などの言葉）
14. 園や学校の先生にほめられたとき	1. 馬鹿にされた（できて普通じゃん それぐらいでほめられたの？ などの言葉） 2. 叱られた（何で今までできんかったと もっとできるでしょ などの言葉） 3. 励まされた（これからも応援してるよ 今度も楽しみにしてるね などの言葉） 4. 認められた（頑張ってたもんね 本当によくできたね さすがだね などの言葉）
15. 学校や友人のことで悩んだとき	1. 馬鹿にされた（どうでもいいじゃん 悩むだけ損 などの言葉） 2. 叱られた（考えすぎ 相手はどうも思っちゃらんから などの言葉） 3. 励まされた（明日はうまくいくよ 思いを伝えてみたら などの言葉） 4. 認められた（いろいろ考えるよね 気持ちはわかるな などの言葉）

表 2 現在の考え方や性格について

4 当てはまる (そうだ)	3 どちらかといえば当てはまる (そうだ)	2 どちらかといえば当てはまらない (違う)	1 当てはまらない (違う)	
問 1. 人前でもこだわりなく自由に感じたままを言うことができます	4	3	2	1
問 2. 自主的に友人に話しかけていきます	4	3	2	1
問 3. 疑問だと感じたらそれを堂々と言えます	4	3	2	1
問 4. 自分の納得のいくまで相手と話し合うようにしています	4	3	2	1
問 5. 人前でもありのままの自分を出せます	4	3	2	1
問 6. 友達と真剣に話し合います	4	3	2	1
問 7. 私は引っ込み思案です	4	3	2	1
問 8. 欠点の 1 つや 2 つあってもかまわないと思います	4	3	2	1
問 9. 自分なりの個性を大切にしています	4	3	2	1
問 10. 自分にはよい面がたくさんあります	4	3	2	1
問 11. 自分のよいところも悪いところもありのままに認めることができます	4	3	2	1
問 12. 自分には自分なりの人生があってもよいと思います	4	3	2	1
問 13. 自分の悪いところは気になりません	4	3	2	1
問 14. 自分の個性を素直に受け入れています	4	3	2	1
問 15. 私は自分のことが好きです	4	3	2	1
問 16. 張り合いがあり、やる気があります	4	3	2	1
問 17. 自分を見失うことなく、自分の道を進んでいます	4	3	2	1
問 18. 前向きな姿勢で物事に取り組んでいます	4	3	2	1
問 19. 生活がすごく楽しいと感じています	4	3	2	1
問 20. 自分の好きなことがやれていると思います	4	3	2	1
問 21. 自分が立てた計画はうまくいく自信があります	4	3	2	1
問 22. 夢や目標をもっていますか	4	3	2	1
問 23. 誰かが悪いことをしたときに、それをやめるように言います	4	3	2	1
問 24. 自分は悪い子だと思っています	4	3	2	1
問 25. 私は自分に自信があります	4	3	2	1

4 結果

(1) 現在、親からかけられる代表的な言葉について

全体の結果を表 3 に示した。まず全体像を見てみると、どの項目においても低い割合を占めたのが馬鹿にされた言葉であり、ほぼ 5.0%未満であった。そのなかでも 1 番高い割合を占めたのは 6. 進んで片付け（掃除）をしたときで 11.1%であった。叱られたと感じたのは、7.夜更かししているとき（59.9%）のみが半数を超え、次いで、2. テストができなかったとき（42.0%）13.遊びで帰りが遅くなったとき（36.6%）という結果となった。同じく、励まされたと感じた項目で高い割合を占めたのは、3.何かに失敗したとき（73.3%）10.就職・進路の相談をしたとき（71.0%）11.園や学校の先生に叱られたとき（53.4%）の 3 項目であった。また、認められたと感じた項目で高い割合を占めたのは 12.何かプレゼントをしたとき（87.4%）1.積極的に手伝ったとき（86.6%）5.何かに成功したとき（70.1%）6.進んで片付け（掃除）したとき（70.6%）が 70%を超えた。次いで 14.園や学校の先生にほめられたとき（65.6%）9.実力が発揮できたとき（54.6%）の項目も半数を超えている。励ましと叱られで同等の割合を示したのは 2.テストができなかったとき（42.7%）（42.0%）13.遊びで帰りが遅くなったとき（34.4%）（36.6%）で

あった。また、8.勉強のことで質問したときについては、認められ（30.9%）励まされ（37.4%）叱られ（28.6%）と3つの言葉かけに大差がなかった。認められと励まされが同等の割合になったのは、15.学校や友人のことで悩んだときで（41.2%）（44.3%）であった。

表3 自身がかけられた言葉の全体の割合

項目		平均	4 (認められ)	3 (励まされ)	2 (叱られた)	1 (馬鹿にされた)
短大生が親からかけられた言葉について	1. 積極的に手伝いをしたとき	3.76	86.6%	8.4%	1.9%	3.1%
	2. テストができなかったとき	2.56	11.1%	42.7%	42.0%	4.2%
	3. 何かに失敗したとき	2.83	9.9%	73.3%	11.1%	5.7%
	4. 食べ物の好き嫌いをしたとき	3.03	27.6%	47.9%	20.3%	4.2%
	5. 何かに成功したとき	3.65	70.1%	26.1%	1.9%	1.9%
	6. 進んで片付け(掃除)をしたとき	3.37	70.6%	16.8%	1.5%	11.1%
	7. 夜更かししているとき	2.41	8.8%	30.2%	59.9%	1.1%
	8. 勉強のことで質問したとき	2.92	30.9%	37.4%	28.6%	3.1%
	9. 実力が発揮できたとき	3.40	54.6%	42.0%	1.5%	1.9%
	10. 就職・進路の相談をしたとき	3.00	17.6%	71.0%	6.1%	5.3%
	11. 園や学校の先生に叱られたとき	2.88	21.0%	53.4%	22.1%	3.4%
	12. 何かプレゼントをしたとき	3.79	87.4%	9.5%	2.3%	0.8%
	13. 遊びで帰りが遅くなったとき	2.77	24.4%	34.4%	36.6%	4.6%
	14. 園や学校の先生にほめられたとき	3.61	65.6%	31.7%	1.1%	1.5%
	15. 学校や友人のことで悩んだとき	3.22	41.2%	44.3%	11.1%	3.4%

(2) 現在、親からかけられる言葉と自己肯定感の関係について

表2のアンケートからそれぞれ個人の「自己表明・対人積極性」「自己実現的態度・充実感」「自己受容」の平均値を求めた。平均値の1～1.4を1群、1.5～2.4を2群、2.5～3.4を3群、3.5～4を4群とし、かけられた言葉に対する1～4群の割合を図にした。

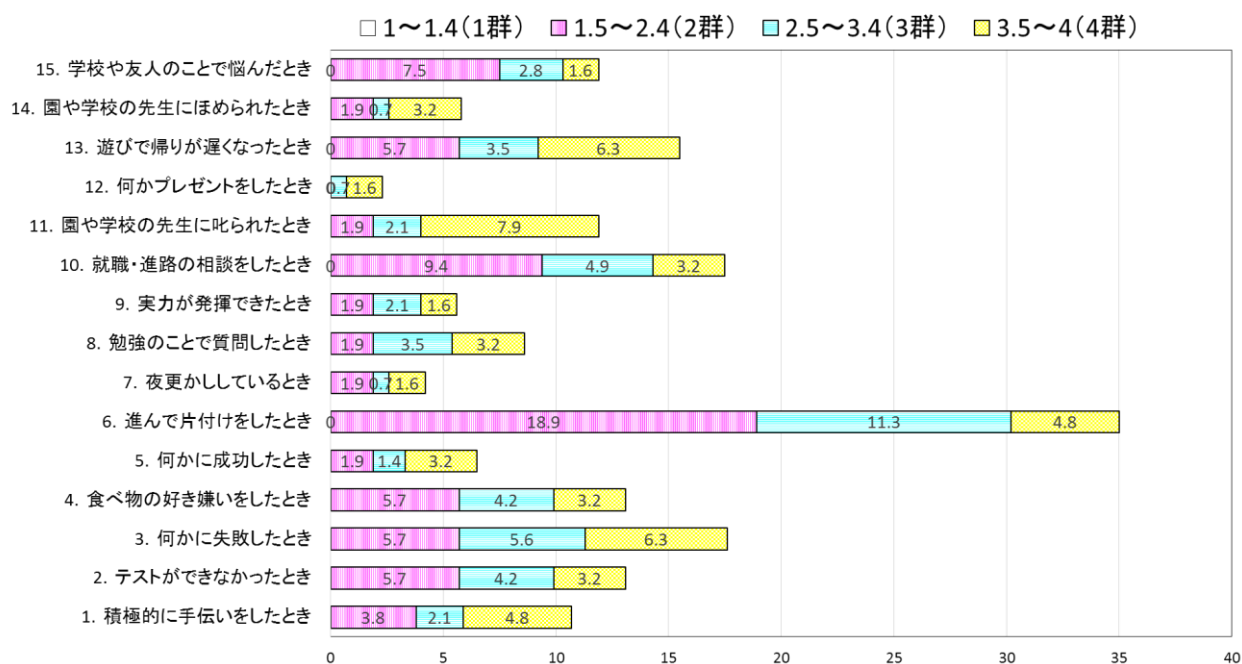


図1 自己表明・対人積極性と馬鹿にされた言葉かけの割合 (%)

まず、自己表明・対人積極性と馬鹿にされた言葉かけの割合から「子どもを馬鹿にすると、引っこみじあんな子になる」を検証した(図1)。全体的にはほかの項目より割合が高かったのは6.進んで片付けをしたときであった。10.就職・進路の相談をしたとき、15.学校や友人のことで悩んだときといった親を頼りたい項目でも馬鹿にされたと答えた学生の割合は他の項目より高めであった。しかし、自己表明・対人積極性の数値が1番低い1群は、すべてにおいて0%であった。

図2では「叱りつけてばかりいると、子どもは自分は悪い子なんだと思ってしまう」を自己実現的態度・充実感と叱られた言葉かけの割合からみてみた。ここでも自己実現的態度・充実感の数値が1番低い1群は該当なしだった。2群、3群、4群を比較すると割合に大きな差異はあまりみられないが、項目によっては4群の割合が若干低い項目や該当者なしの項目もあった。項目の内容をみると、2.テストができなかったとき、7.夜更かししているとき、13.遊びで帰りが遅くなったときなど、一般的に叱られる傾向にある項目で割合が高いことが示された。

次に「励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる」を自己実現的態度・充実感と励ましの言葉かけの割合(図3)からみてみる。こちらでも1群該当率は0%であった。2群から4群においては同等の割合のものも多いが9.実力が発揮できた時、14.園や学校の先生にほめられたときについては数値が高くなるにつれて割合は低くなっていた。

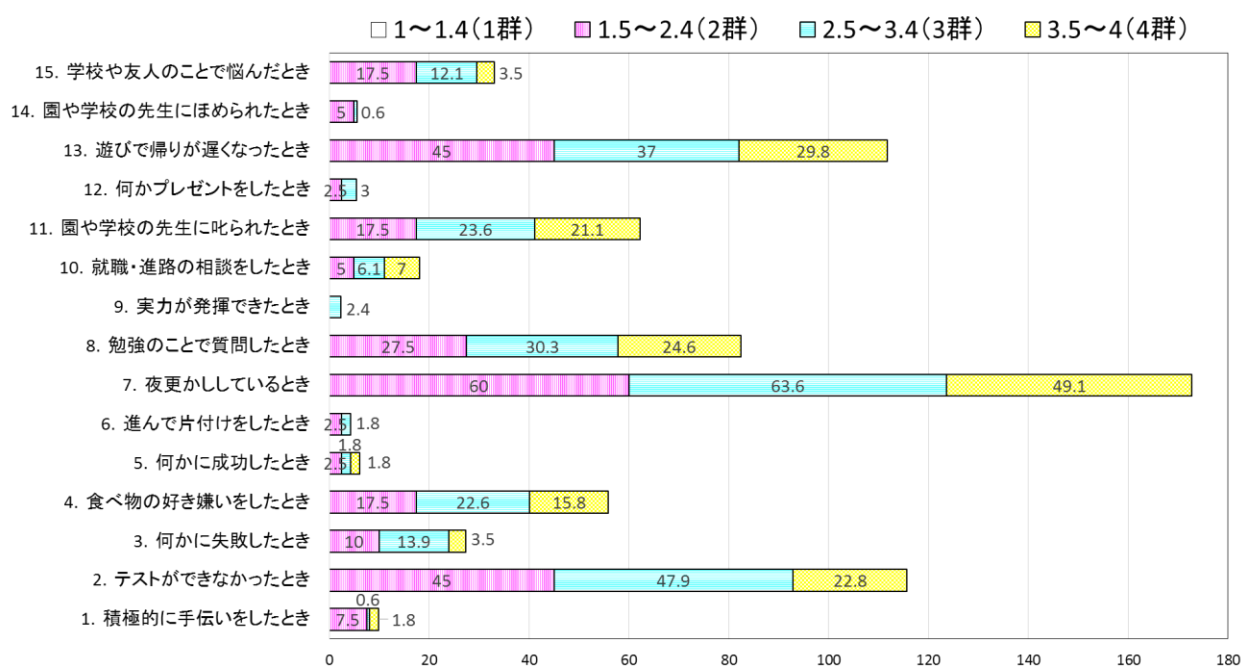


図2 自己実現的態度・充実感と叱られた言葉かけの割合(%)

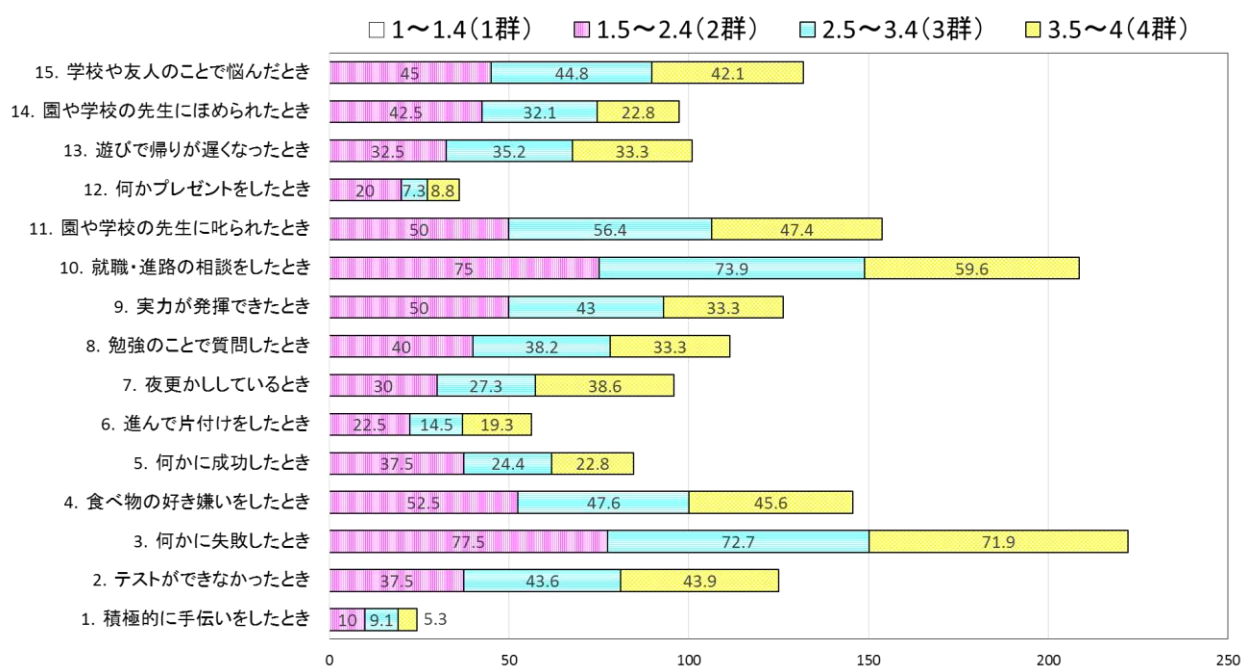


図3 自己実現的態度・充実感と励ましの言葉かけの割合(%)

図4では、「認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる」を検証するため、自己受容の数値と認められた言葉かけとの関連性をみた。自己受容の数値の低い1群は該当なしであった。すべての項目において2群よりも4群のほうが認められた言葉かけの割合が高くなっている。

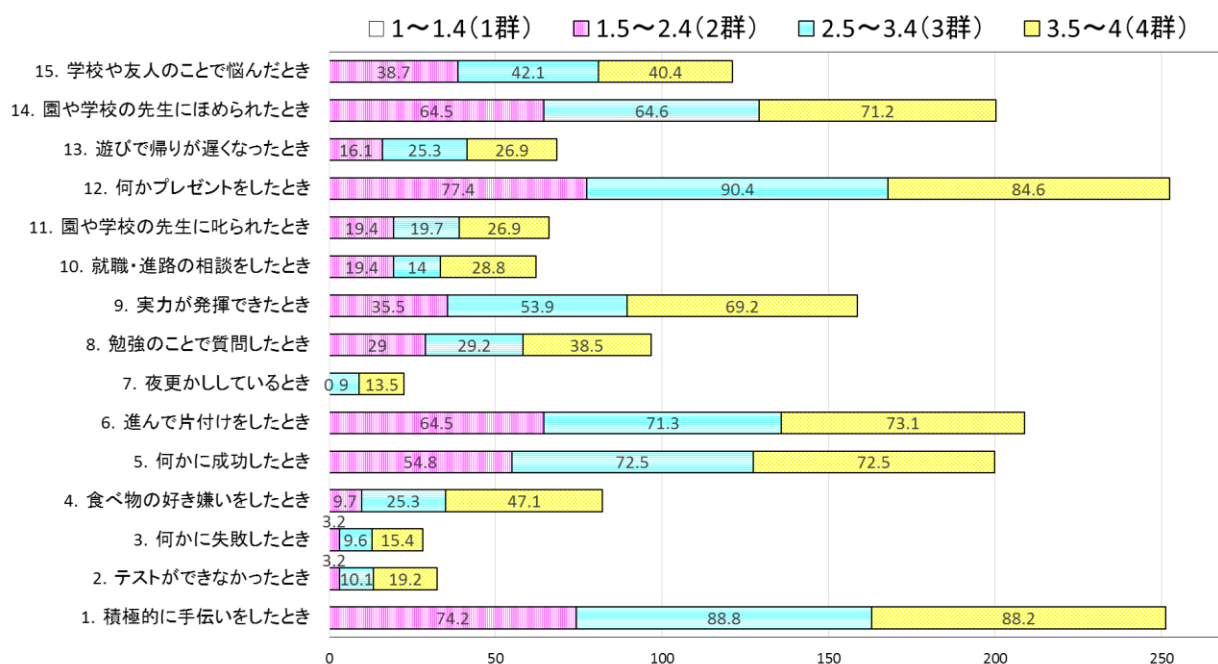


図4 自己受容と認められた言葉かけの割合(%)

(3) 親からかけられる言葉と現在の性格の関係について

表 1 のアンケートから個人の平均点を出し、1～1.4 を馬鹿にされた言葉が多かった群、1.5～2.4 を叱られた言葉が多かった群、2.5～3.4 を励ましの言葉が多かった群、3.5～4 を認められた言葉が多かった群としてそれぞれ「私は引っ込みじあんだ」「私は悪い子だ」「自分に自信がある」「自分が好きだ」と答えた割合をみた。

1～1.4 の馬鹿にされた言葉が多かった群は該当者 1 人で、「私は引っ込みじあんである」「どちらかといえば悪い子だ」「自分に自信がある」「自分が好きだ」と回答している。

図 5 は叱られた言葉が多かった群のグラフである。どちらかといえばを含めると 60% が自分を引っ込みじあんだと思い、50% が自分を悪い子だと感じていた。また、自分に自信がないと答えたのは 80% であった。自分が好きかどうかについても 80% が好きではないと答えた。

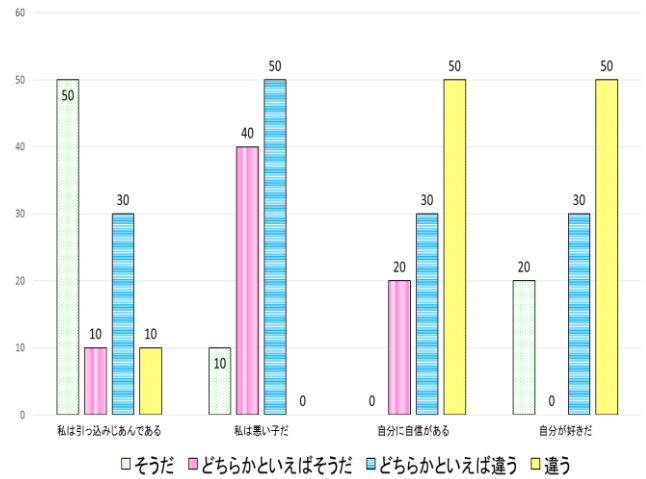


図 5 叱られた言葉が多かった群 (%)

励ましの言葉が多かった群のグラフを図 6 に示した。どの項目もどちらかといえばを選択する傾向が強い。引っ込みじあんだどうか、自分が好きかどうかは半々というところである。どちらかといえば悪い子ではないと答えたのは 53.2% で、悪い子ではないを含めると 72.2% と高い割合を示した。自分に自信があるかどうかについても、どちらかといえばを含め 67.3% がないと答えた。

図 7 に示したのは認められた言葉が多かった群のグラフである。引っ込みじあんに関してはだいたい同じ割合であったが、どちらかといえば悪い子ではないと答えたのは 60.9% と高い割合を示した。悪い子ではないを含めると 87% になる。自分が好きかどうか、どちらかといえばを含めると 73.9% が好きだと答えている。

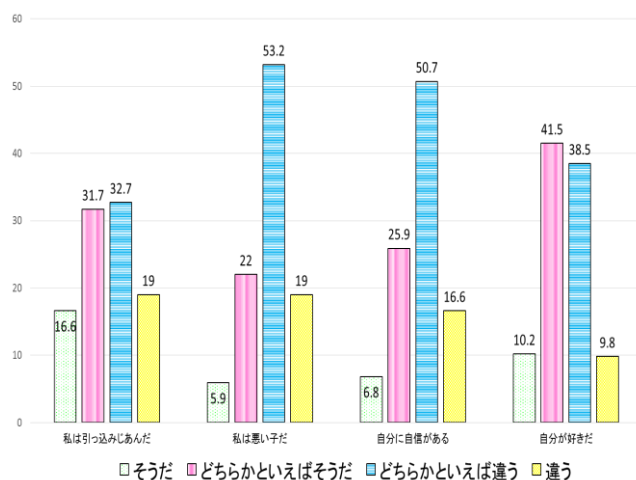


図 6 励ましの言葉が多かった群 (%)

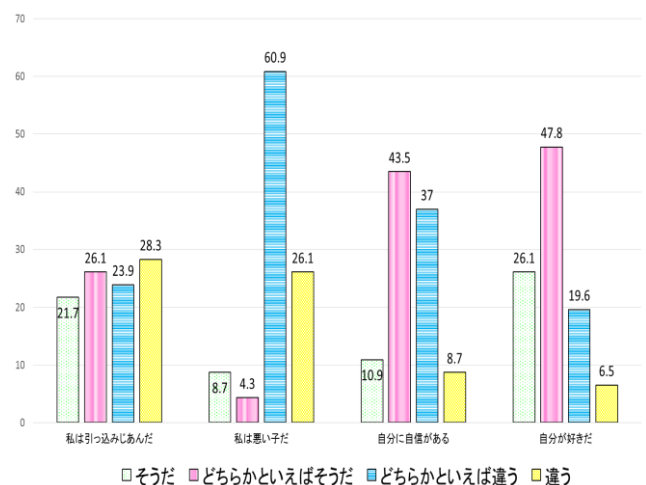


図 7 認められた言葉が多かった群 (%)

考察

本研究は『子どもが育つ魔法の言葉』ドロシー・ロー・ノルト、レイチャル・ハリス、石井千春=訳（1999.PHP）に記載されている「子は親の鏡」という詩、19 連の中から 4 連について取り上げ、短大生における親の言葉かけが学生の考え方や性格に影響を及ぼすのかどうか関係性を検証することを目的とした。

（1）親からかけられる代表的な言葉について

親からかけられる言葉について、どの項目でも馬鹿にされた言葉かけの割合はかなり低かった。割合が 1 番高かったのは 11.1% で、項目としては 6.進んで片付け（掃除）をしたときであった。自らよいことを実践しているときこそ励ましや認めの言葉かけが望ましいのだが、馬鹿にされたらどんな気持ちが残るだろうか。全体をみると 5% 台が 2 項目あるものの 12 項目については 5% 未満の結果であった。これは現在の生活において、馬鹿にされる言葉かけがかなり少ないことを示している。

叱られた言葉かけが高い割合を占めたのは、7.夜更かししているときで 59.9% だった。次いで 2.テストができなかったとき（42.0%）13.遊びで帰りが遅くなったとき（36.6%）と一般的に叱られるであろう項目であった。8.勉強のことで質問したときに叱られたと答えた学生が 28.6% いたのは予想外であった。

励ましの言葉かけについては、3.何かに失敗したとき（73.3%）10.就職・進路の相談をしたとき（71.0%）の項目で 7 割を超えた。次いで多かったのは 11.園や学校の先生に叱られたときで 53.4% であった。

認められた言葉かけで 1 番割合が高かったのは、12.何かプレゼントをしたとき（87.4%）で次に 1.積極的に手伝いをしたとき（86.6%）であった。7 割を超えたのは 5.何かに成功したとき（70.1%）6.進んで片付けをしたとき（70.6%）の 2 項目で、5 割を超えるのは全部で 6 項目になった。

アンケートの項目はよいとされる行動、よくないとされる行動を半々に 6 項目ずつ設け、どちらでもないものも 3 項目ほど加えた。親からかけられる代表的な言葉全体をみてみると、励まされた・認められたと答えた学生の割合がそれぞれ 50% を超えたのは 9 項目になり本学の学生は馬鹿にされた・叱られたといったマイナスの言葉かけよりも、励まされ・認められといったプラスの言葉かけを多くもらっていることがわかった。

（2）親からかけられる言葉と自己肯定感の関係 （3）現在の性格との関係について

＜子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる＞

自己表明・対人積極性と馬鹿にされた言葉かけの関係性をみると、数値の低い 1 群は該当なしであった。逆に数値の高くなる 2 群～4 群で馬鹿にされたと回答している学生がおり、なかには 4 群が 1 番高い割合を占めた項目も 7 項目みられた。これにより自己表明・対人積極性が低くても必ずしも馬鹿にされた言葉を受けていないこと、自己表明・対人積極性が高くても馬鹿にされた言葉かけを受けていることが示された。このことから子どもを馬鹿にしたからといって必ずしも引っ込みじあんなになるとは言い切れないといえる。

＜叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう＞

自己実現的態度・充実感と叱られた言葉かけの関係性においても数値の低い 1 群は該当なしで

あった。2～4 群を比較すると大差のないものもあるが、7 項目においては 2 群、3 群、4 群と数値が上がるにつれ割合が低くなっていること、4 項目については 4 群の割合が 0%だったことから自己実現的態度・充実感と叱られた言葉かけは多少関連性があるといえよう。しかし、現在の性格との関係における叱られた言葉が多かった群のグラフでは、私は悪い子だと答えた学生は 10%、どちらかといえば悪い子だと答えた学生が 40%、合わせて 50%と半分だった。また、どちらかという悪い子ではないと答えた学生が 1 番多く 50%を占め、多少の関連性はあるが一概にはいえない。森下・後藤(2016)は、感謝の言葉かけが多いと他者信頼を高めることができる。さらに感謝の言葉かけが多いなかで否定的言葉かけがあると、より他者信頼が高まることを発見している。これは叱ることや指導することも信頼関係を高めるためには必要であることを示している。励まし・認められの言葉かけが多いなかで指導が必要な場面で叱られたと感じることは、親への信頼関係を高めることに繋がっているといえよう。話し方研究所の福田健氏は著書『子どもは「話し方」で 9 割変わる』(2009)の中で「許しがたい行為は怒涛のごとく叱ってよい」としている。その中に、やみにやまれぬ親の思いが込められており、子どもの心に届くと解説している。

＜励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる＞

自己実現的態度・充実感と励ましの言葉かけについては関連性は低いと判断した。数値の低い 1 群は該当なしであったが、2 群、3 群、4 群を比較しても 5 項目は大差なく 8 項目においては 2 群から 4 群にかけて割合が低くなっていたからである。現在の性格との関係における励ましの言葉が多かった群のグラフをみると、自分に自信があると答えたのはわずか 6.8%でどちらかといえば自信があるを含めても 32.7%にとどまった。1 番多かったのはどちらかといえば自信がないで 50.7%と半数を占めた。自信がないを含めると 67.3%になり、励ましが直接自信に繋がるとは断言できない。後藤・森岡(2005)は親の言葉の中には身体語も加わり意図や気持ちが込められることから、同じ「励まし」の言葉でも子どもの抱く感情の種類や程度によっては叱りや説教と同じになる可能性を打ち出している。このことから、言葉では励まされながらも叱られたと受け止めた学生がいた可能性もみえてくる。

＜認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる＞

自己受容と認められた言葉かけの関係性においても数値の低い 1 群がいなかった。調査の結果、ほとんどの項目(11 項目)で 2 群から 4 群にかけて認められた言葉かけの割合も高くなっている。また、2 群と 4 群を比較して割合が増えているものも含めるとすべての項目において 4 群の割合が高いことになる。これに関しては関係性があるといえるのではないだろうか。現在の性格との関係をみても、自分が好きだと答えた学生は 26.1%、どちらかといえば好きだと答えた学生が 47.8%で、合わせて 73.9%の学生が自分を好きだと思っていることがわかる。逆に自分が嫌いだと答えた学生はわずか 6.5%であった。この結果から、認めてあげることと自分を好きになるということは関連があるといえるのではないだろうか。

図 5、6、7 をどちらかといえばを含め「そうだ」「ちがう」で比較してみた(表 4)

現在かけられている言葉で、叱られた言葉が多かった群は自分に自信がない、自分を好きではないと思っている割合が 80%と高いことがわかる。また 60%は自分を引っ込みじあんであると思っている。励ましの言葉が多かった群では、72.1%は自身を悪い子ではないと捉え、67.3%は自

分に自信がないと答えている。認められた言葉が多かった群においても悪い子ではないと答えたのは 87%と高く、自分が好きだと思う割合も 73.9%と高い数値を示した。

	叱られた言葉が多かった群	励ましの言葉が多かった群	認められた言葉が多かった群
私は引っ込みじあんである	60%	48.3%	47.8%
私は引っ込みじあんでない	40%	51.7%	52.2%
私は悪い子だ	50%	27.9%	13%
私は悪い子ではない	50%	72.1%	87%
私は自分に自信がある	20%	32.7%	54.4%
私は自分に自信がない	80%	67.3%	45.6%
私は自分が好きだ	20%	51.7%	73.9%
私は自分が好きではない	80%	48.3%	26.1%

表 4 親からかけられた言葉と現在の性格の割合（どちらかといえばを含む）

項目別に、叱られ→励まし→認められの順に割合を比較すると、どの項目も、自分を「引っ込みじあんでない」「悪い子ではない」と肯定的に捉える傾向が高くなり、自分に自信があり自分を好きだと思っている割合も高くなることから分かる。励ましの言葉と認められた言葉を比較するとどちらも同じプラス言葉だが、どの項目に関しても認められた言葉をかけてもらったほうが自己肯定感が高くなること、励ましの言葉が多いと自信をなくす傾向にあることが示された。これは前回の調査結果を支持するものとなった。同時に多くの育児書等書かれている“言葉かけが子どもの考えや性格に影響を及ぼす”ことも支持する結果となった。こどもコンサルタントの原坂一郎氏は『子どもを幸せにするお母さんの言葉』（2017）のなかでマイナスの言葉を否定言葉と表し、その言葉を受けると子どもは自分の行動に自信を失くし指示待ち的になったり破壊行動が出たりすると記している。「ほめて育てよう」「ほめると伸びる」など育児書ではよく目にする、励ましの言葉をかけるよりも認める言葉をかける方が効果的なほめ方であることを今回も見出すことができた。

今後の課題

今回の研究により、親の言葉かけと現在の性格や考え方の関係性をみることができた。しかしこれは、松永・塚越（2010）が示したように、幼少期にかけられた言葉が少なくとも後々の考え方や性格に繋がっていることや秦野悦子氏の著書『子どもの気になる性格はお母さん次第でみる変わる』（2012）にもあるように幼少期の子育てや親の性格が子どもの性格に影響することを考慮すると、親の言葉かけだけが子どもの性格や考え方を形成しているとはいえない。「ほめ」と「叱り」に着目した研究（永田・三崎・森 2005）では、「ほめ」に関しては受け手の感じ方（満足度）に違いが見られないが「叱り」に関しては「叱られ方」の違いによる感じ方（納得度）に違いが見られることを見出しており、後藤・森岡（2005）は親の言葉の中には身体語も加わり

意図や気持ちが込められるとしている。これらのことから、子どもの性格や考え方は親の言葉だけでなく対応や雰囲気も大きな影響を与えているといえよう。また、小川ら（2011）は父親・母親の言葉かけと青年期女子の自尊感情との関連において、母親に頼もしいという養育態度イメージを持っている場合、親から肯定されていると考える傾向にあり、それは自らの肯定感に繋がり自尊感情を高めるとしている。佐々木（1994）は接触の程度によって性格特性に差があり、接触の多いほうがより肯定的な性格傾向にあること、接触が子どもの性格形成に重要な意味を持つことを実証している。総合すると、親の言葉かけや対応、存在、かかわり方すべてが絡み合いながら子どもの性格や考え方の基礎を作っていくといえよう。そうであれば親は子どもにどんなにかかわり方をするとよいのだろうか。本学は保育士を目指す学校である。汐見（2012）は著書『この「言葉かけ」が子どもを伸ばす！』のなかで他者との比較ではなく「私は私」という基本的な感情で自分を受容し信頼する肯定感覚、背伸びしない自分を認め、受容し、自分を信じる自尊感情がこれから生きる子どもにとって一番大切だと記している。そのためには、受け入れ認められる環境にあることがふさわしい。自身が励まし・認められながら育てられたことは、保育士として同じように子ども達と向き合い導くことができる基礎に繋がるのではないだろうか。今回は現在の言葉かけ、前回は幼少期における言葉かけについて質問紙調査を行ったが、対象が違う学生であった。今後、同じ学生に幼少期と現在の言葉かけについて調査研究をおこなうと、また新たな見解がみえてくるかもしれない。また、保育士を目指す学生とそうでない学生との差異にも視点をおいて分析するとさらに見解の幅も広がるだろう。

引用・参考文献

- ドロシー・ロー・ノルト、レイチャル・ハリス、石井千春＝訳（1999）『子どもが育つ魔法の言葉』PHP
- 高妻弘子（2018）幼少期における親の言葉かけと子どもの考え方や性格との関連性について
宮崎学園短期大学紀要 Vol. 10, 71－83
- 森下正康・藤村あずさ（2013）小学校の頃の養育者からの言葉かけが女子大学生の自己制御機能の発達に与える影響 京都女子大学発達教育学部紀要 Vol. 9, 125－134
- 森下正康・松山紗也（2014）中学・高校時代の母親の言葉かけが女子大学生の母子関係に与える影響 京都女子大学発達教育学部紀要 Vol. 10, 103－112
- 平石賢二（1990）青年期における自己意識の発達に関する研究（Ⅰ）—自己肯定性次元と自己安定性次元の検討— 名古屋大学教育学部紀要 Vol. 37, 217－234
- 佐伯怜香・新名康平・服部恭子・三浦佳世（2006）児童期の感動体験が自己効力感・自己肯定意識に及ぼす影響 九州大学心理学研究 Vol. 7, 181－192
- 森下・後藤（2016）児童期の母親の言葉かけと女子大学生の自尊感情や他者信頼—具体的な場面での言葉かけと特性に関する言葉かけの影響— 京都女子大学発達教育学部紀要 Vol. 12, 145－154
- 福田健（2009）『子どもは「話し方」で9割変わる』経済界 p.154－156
- 後藤ヨシ子・森岡麻衣子（2005）ことばと親子交流に関する研究 長崎大学教育学部紀要 No. 44, 77－84
- 原坂一郎（2017）『子どもを幸せにするお母さんの言葉』PHP p.8－9
- 松永あけみ・塚越由佳（2010）大人の「言葉かけ」が幼児の向社会的行動に及ぼす影響（その2） 群馬大学教育学部紀要 Vol. 59, 195－204
- 秦野悦子（2012）『子どもの気になる性格はお母さん次第でみるみる変わる』PHP p.28－30
- 永田・三崎・森（2005）子どもへの言葉かけに関する研究—「ほめ」と「叱り」に着目して— 学校教育実践学研究 Vol. 11, 37－44
- 小川由希子・山田智世・杉山里美・上岡美紀・平田裕美（2011）父親・母親の言葉かけと青年期女子の自尊感情との関連 —影響を及ぼしているのは父親、それとも母親？— 女子栄養大学紀要 Vol. 42, 35－41
- 佐々木九長（1994）家族との接触が性格形成に与える影響について
—三世代同居家族における特徴— 聖霊女子短期大学紀要 Vol. 22, 32－39
- 汐見稔幸（2012）『この「言葉かけ」が子どもを伸ばす！』PHP 文庫 p.18－19